

平成19年度に実施された事業の結果報告及び今後の方向性(概要)

※本ページは各事務事業の概要紹介と19年度の報告を目的としています。評価の詳細については次ページをご覧ください。

事業名	親子運動遊び実施事業	所管	保健福祉部 子ども支援課
			TEL 2998-9124

事業の目的 (何の為に 行うか)	運動遊びの紹介を通して、子どもたちの成長における正しい生活リズムを身に付けることの大切さを知ってもらうとともに、親としての役割の再認識を促す
------------------------	--

対象 (誰を、何を 対象としてい るか)	市内在住の未就学児童	対象とした数	20,976	人
		実際に 利用した数	443	人

活動の内容	(何を したか)	<p>市が広報、ホームページ等により告知を行い参加者を募り、教授および研究室の学生が講師を務める連携事業。子どもたちが積極的に運動し正しい生活リズムを身に付けてもらうことを目的とした、家庭でも親子で気軽に楽しめる運動遊びの紹介する。</p> <p>市は、講師料等の経費を節減することができ、大学は研究テーマに沿った対象の確保により学生の研修及び実践の場を得ることができるといった、互いにメリットを得ながら充実した事業の実施が可能となっている。</p>							
活動実績	項目名	開催回数	7	項目名	参加者数	443	項目名	単位	単位
			----- 単位 回			----- 単位 人			

経費 (どれだけか かったか)	当初予算額(千円)	決算額(千円)	事業費合計(千円) ※人件費・公債費を含む	市民一人当たり単価(円)
	10	6	476	1.4

成果 (結果として どうなった か)	成果指標名	説明 (計算方法等)	目標値	実績	達成率
	1回あたりの参加者数	延べ参加者数÷開催回数	100	63.3	63.3
			----- 単位	----- 単位	----- 単位 %

今後の 方向性 (所管の意 見)	総合 評価	* 事業の継続 ⇒ * 拡充 縮小 統合 改善・効率化 改善余地なし その他 []							
		終了 ⇒ 事業完了		終了		休止			
	予算	* 現状どおり		増額		減額		終了	

今後の 方向性 (二次評価の 意見)	二次評価実施の有無 有り⇒下記評価へ * 無し⇒終了								
	総合 評価	拡充 縮小 統合		改善・効率化		改善余地なし		その他 [] 終了	
	予算	現状どおり		増額		減額		終了	

平成 20 年度事務事業評価表(一般用)

①事務事業名		担当 部課	部課コード	040500	TEL	2998-9124
事業コード	親子運動遊び実施事業					
040503						
開始年度		平成 18 年度	—	終了年度	平成 年度	

②事業の概要	事業の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務 <input type="checkbox"/> 法定受託＋附加			根拠法令
	分野別計画・指針	所沢市次世代育成支援行動計画			
	関連・類似事業				
	総合計画の体系	政策	第3章 豊かな心で健やかに暮らせる支え合いのまち	施策	2節 児童福祉
				中柱	小柱
	・H19市民意識調査における施策の順位…43施策中 9 位		・実施計画における位置づけ… H19 *** H20 ***		
	行政改革大綱における行動計画への位置づけ				
	コード	新たな地域コミュニティの構築		コード	
	1211			コード	
	事業開始の背景	早稲田大学人間科学部教授の働きかけにより官・学連携による市と大学の協働事業として、親子のふれあいを増進し、運動遊びによる楽しく就学前の子どものための順調な発達を促すため、平成18年度より実施することとなった。			

③事業の内容	目的(何のために行うか、具体的に)					
	運動遊びの紹介を通して、子どもたちの成長における正しい生活リズムを身に付けることの大切さを知ってもらうとともに、親としての役割の再認識を促す					
	対象(誰を、何を対象としているのか)			利用数の考え方		
	市内在住の未就学児童			参加者数		
	対象数	単位	平成 18 年度	20,993	人	平成 19 年度
		平成 19 年度	20,976	人	平成 19 年度	443
	事業の具体的な内容及び実施方法					
	市が広報、ホームページ等により告知を行い参加者を募り、教授および研究室の学生が講師を務める連携事業。子どもたちが積極的に運動し正しい生活リズムを身に付けてもらうことを目的とした、家庭でも親子で気軽に楽しめる運動遊びの紹介する。 市は、講師料等の経費を削減することができ、大学は研究テーマに沿った対象の確保により学生の研修及び実践の場を得ることができるといった、互いにメリットを得ながら充実した事業の実施が可能となっている。					

④前年評価と改善点	平成19年度事務事業評価結果(平成20年度の方向性)		≪ 最終評価 <input type="checkbox"/> 一次評価 <input type="checkbox"/> 二次評価 ≫			
	総合評価	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の継続 ⇒ (<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input checked="" type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 改善余地なし <input type="checkbox"/> その他 ())				
		<input type="checkbox"/> 終了 ⇒ (<input type="checkbox"/> 事業完了 <input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 休止)				
	予算	<input checked="" type="checkbox"/> 現状どおり <input type="checkbox"/> 増額 <input type="checkbox"/> 減額 <input type="checkbox"/> 終了				
	平成19年度中に改善した点					
	参加者の傷害等に対応するため、スポーツ保険へ加入した。					

⑤経費	《会計種別》	一般会計	平成 18 年度 (千円)	平成 19 年度 (千円)	平成 20 年度 (千円)	
	当初予算		—	10	0	
	決算 (見込み含む)		0	6		
		(嘱託職員) (臨時職員)	(人) (人)	(人) (人)		
	正規職員人件費		0.05 人 460	0.05 人 470	※「財源内訳」について平成20年度のみ、当初予算の内訳となっています。	
	公債費					
	事業費合計		460	476		
	財源内訳	一般財源		460	476	0
		国・県支出金				
		受益者負担金				
市債						
その他						
市民一人当たり(単位:円)		1.4	1.4			
利用数一単位あたり(単位:円)		907.3	1,073.8			

⑥指標	項目名	計算方法	単位	H 18	H 19	H20見込み	将来目標	
	活動実績	開催回数	実績	回	8	7	10	
		参加者数	実績	人	507	443		
	成果分析	1回あたりの参加者数	延べ参加者数÷開催回数	目標値	100	100	100	
				実績	63.38	63.29		実績値の拡大を図る1 実績値の縮小を図る2
% 達成率				63.4	63.3		1	

⑦一次評価	評価項目	現状評価	評価項目	現状評価
	対象設定	事業の対象を見直す必要性	実施主体	現在の実施主体
		<input type="checkbox"/> 対象を絞る <input type="checkbox"/> 対象を拡大する <input checked="" type="checkbox"/> 見直しの必要なし		市、大学
	他事業との整理・統合	類似・関連事業などとの整理・統合	受益と負担の関係	見直しの必要性
		<input type="checkbox"/> 統合する <input checked="" type="checkbox"/> 連携する <input type="checkbox"/> 類似事業がない <input type="checkbox"/> 統合等必要なし		<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
			受益者負担の有無	
			見直しの必要性	
			<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
			<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
明らかとなった課題	事業本来の目的である子どもたちの正しい生活リズムを身に付けてもらうことについて、プログラム内容を考慮する必要が出てきている。子どもたちの実態を把握するための調査等を行うことも検討する必要がある。			
	今期目標項目(何を)	達成水準(どこまで)	時期(いつまで)	
	平成20年度における目標設定	1回あたりの平均参加者数の増加を図る	30組	今年度中
	平成21年度における事業の方向性			
	総合評価	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の継続 ⇒ (<input checked="" type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 改善余地なし <input type="checkbox"/> その他 ())		
		<input type="checkbox"/> 終了 ⇒ (<input type="checkbox"/> 事業完了 <input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 休止)		
	予算	<input checked="" type="checkbox"/> 現状どおり <input type="checkbox"/> 増額 <input type="checkbox"/> 減額 <input type="checkbox"/> 終了		
	評価理由	大学と市の双方が資源を提供することによって経費節減が可能となっており、今後の事業運営のモデルケースになりうると考えられる。今後はこれまでの実施方式を発展させた事業展開を探っていく。		
	評価日	平成20年6月6日	記入者職氏名	子ども支援課長 黒澤潤子

⑧二次評価	一次評価を受けて	平成21年度における事業の方向性					
	総合評価	<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 改善余地なし <input type="checkbox"/> その他 () <input type="checkbox"/> 終了					
	予算	<input type="checkbox"/> 現状どおり <input type="checkbox"/> 増額 <input type="checkbox"/> 減額 <input type="checkbox"/> 終了					
	評価理由	評価日					
⑨個別計画における方向性	次年度用事前評価	部内優先順位… 位	非常に高い	高い	やや低い	低い	優先度評価
		見込まれる貢献度	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	評価理由	市長マニフェスト					
	評価日						

⑨個別計画における方向性	◎環境基本計画	本事業の左記計画における位置づけ… 無し		計画コード	
	施策の体系				
	◎次世代育成支援行動計画	本事業の左記計画における位置づけ… 有り		計画コード	1212
	基本目標	子どもたちがたくましく生きていくための力を伸ばします			
	主要課題	2ホムタタウンとしての家庭・地域づくり			
	施策の方向	1健全な家庭づくり			